
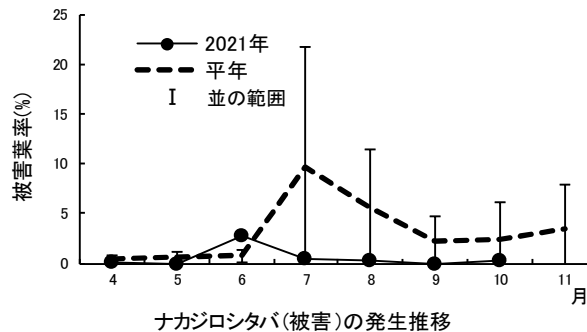
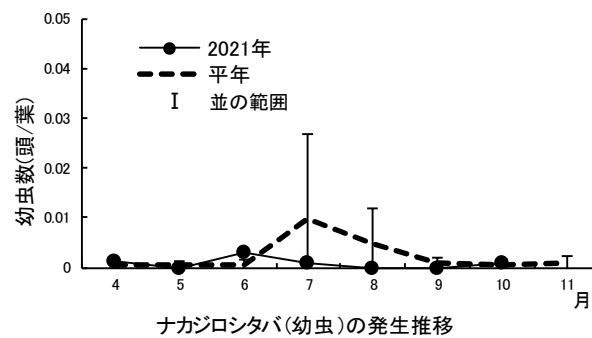


| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | カンショ | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ナカジロシタバ | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |


調査結果



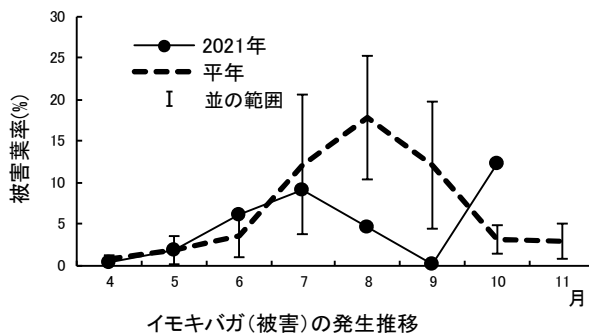
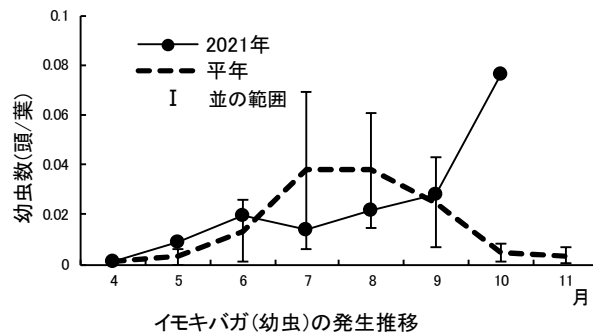
幼虫発生ほ場率 : 25% (平年値 15%)

防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | カンショ | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① イモキバガ | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 多 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 多 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |


調査結果



幼虫発生ほ場率 : 100% (平年値 84.6%)

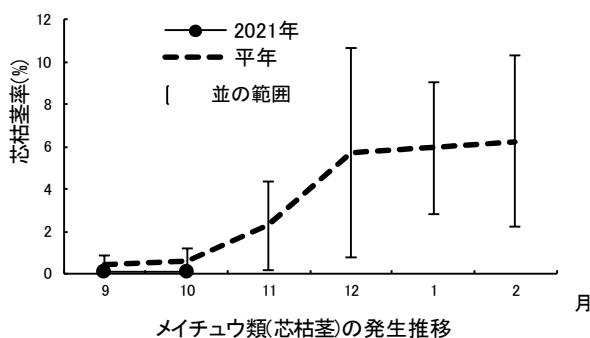
防除のポイント

- ・ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

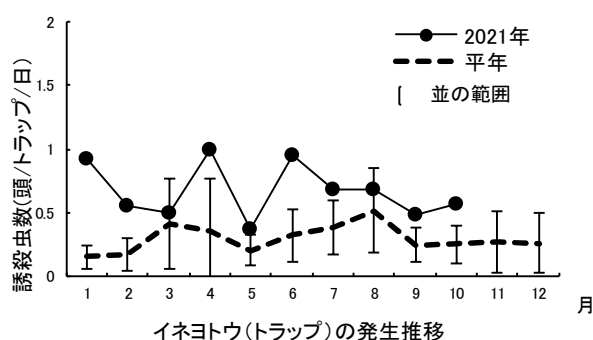
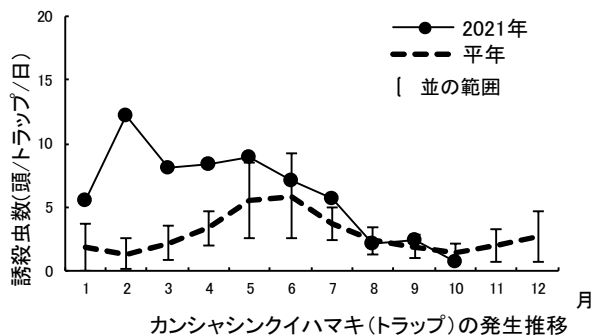
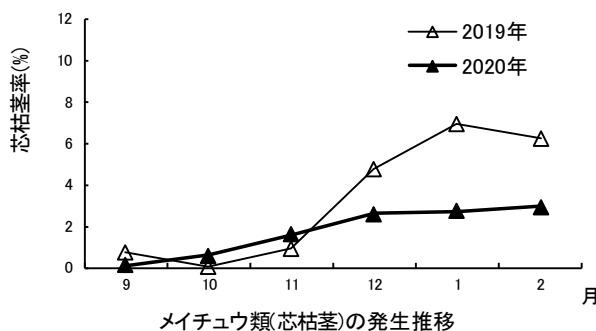
| | | | | |
|-------|-----------------------------|--------------------|---|------|
| 作物 | さとうきび | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ) | |  | |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↗ | | |
| | | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗) | | |

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



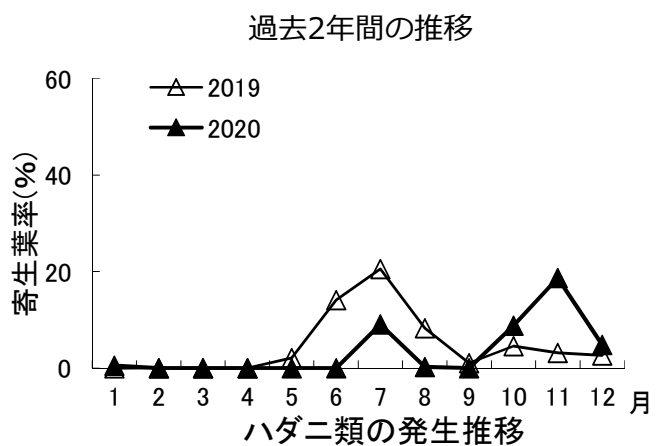
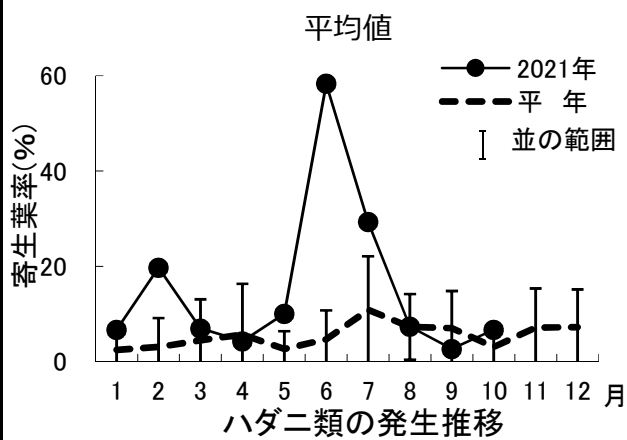
・ 芯枯れ発生ほ場率：16.7% (平年値：35.4%)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

| | | | |
|-------|---------------|--|---|
| 作物 | かんきつ（温州みかん） | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① ハダニ類 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | | 11 月の発生量（平年比） | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↗） 今後 1 か月の降水量が平年並か少ない見込み | |

調査結果




- ・ 発生ほ場率：40.0%（平年：32.6%）

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

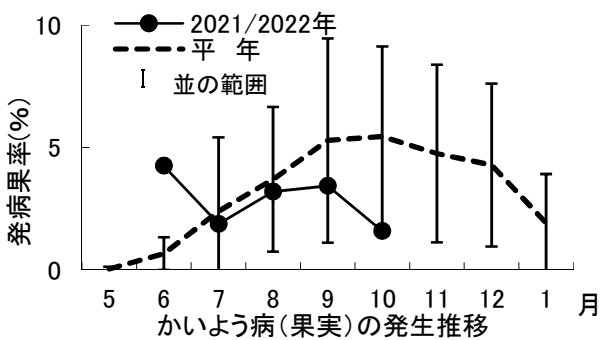


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | かんきつ (タンカン) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① かいよう病 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | | 11 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | |

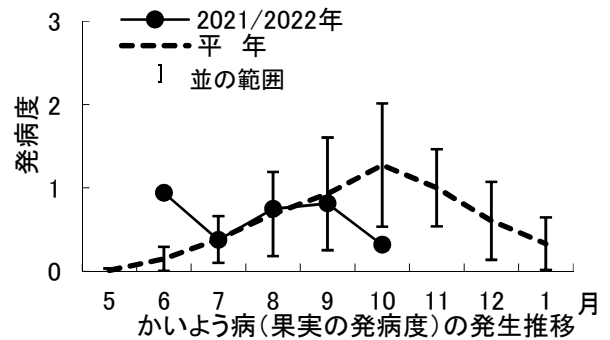
調査結果

発病果率・平均値

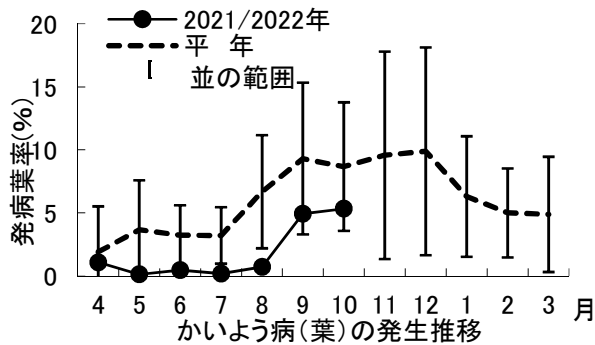


・ 発生ほ場率 : 80.0% (平年78.0%)

果実の発病度・平均値

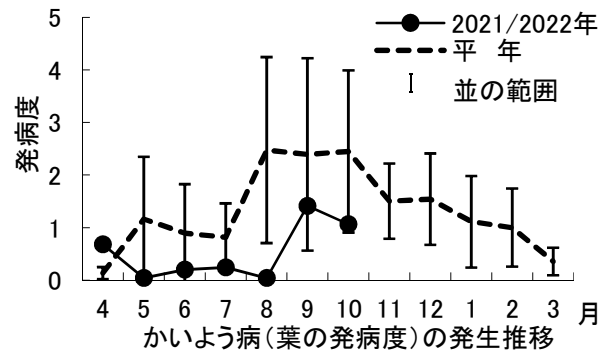


発病葉率・平均値



・ 発生ほ場率 : 60.0% (平年85.7%)

葉の発病度・平均値




防除のポイント

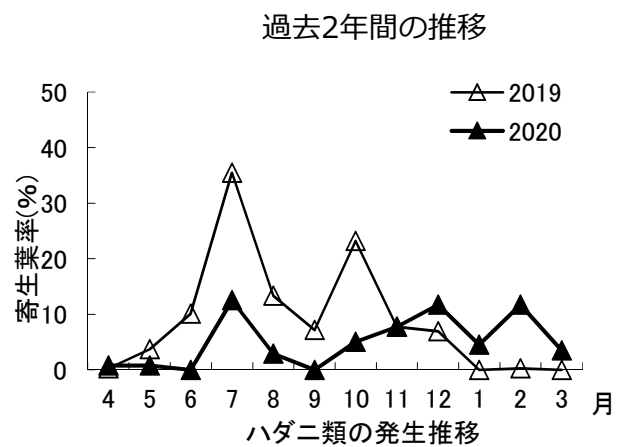
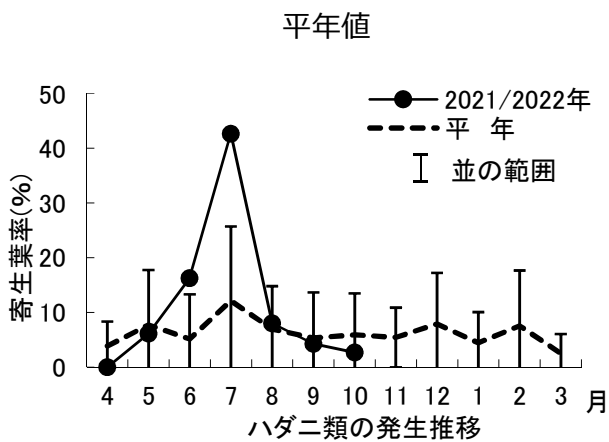
- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

被害葉→



| | | | |
|-------|----------------|--------------------------------------|---|
| 作物 | かんきつ (タンカン) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② ハダニ類 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) 今後 1 か月の降水量が平年並の見込み | |

調査結果




・ 発生ほ場率 : 40.0% (平年 : 35.7%)

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



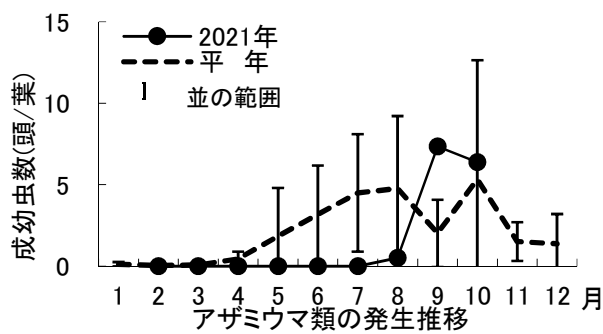
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | チャノキイロアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↓ | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↓) | |

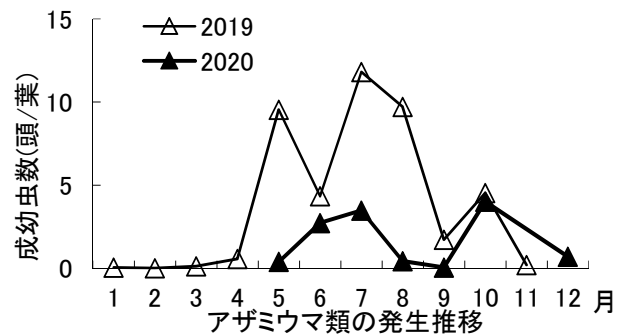
調査結果

(見取り調査)

平均値

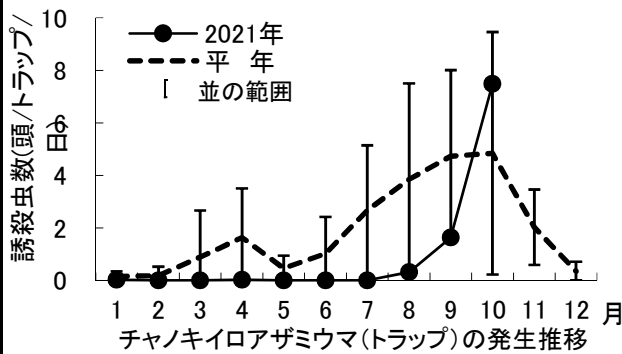


過去2年間の推移

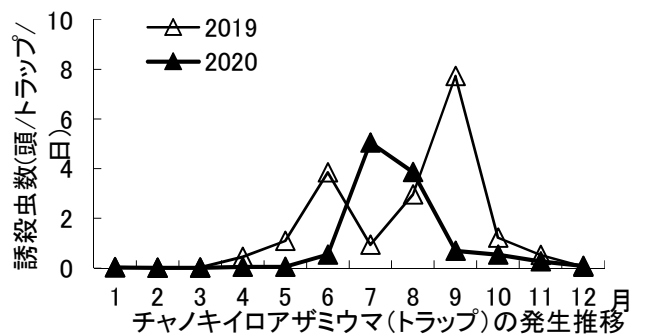


(トラップ調査)

平均値



過去2年間の推移




- ・発生施設率：80% (平年値：83.6%)
- ・一部ほ場で発生が多く見られた

防除のポイント

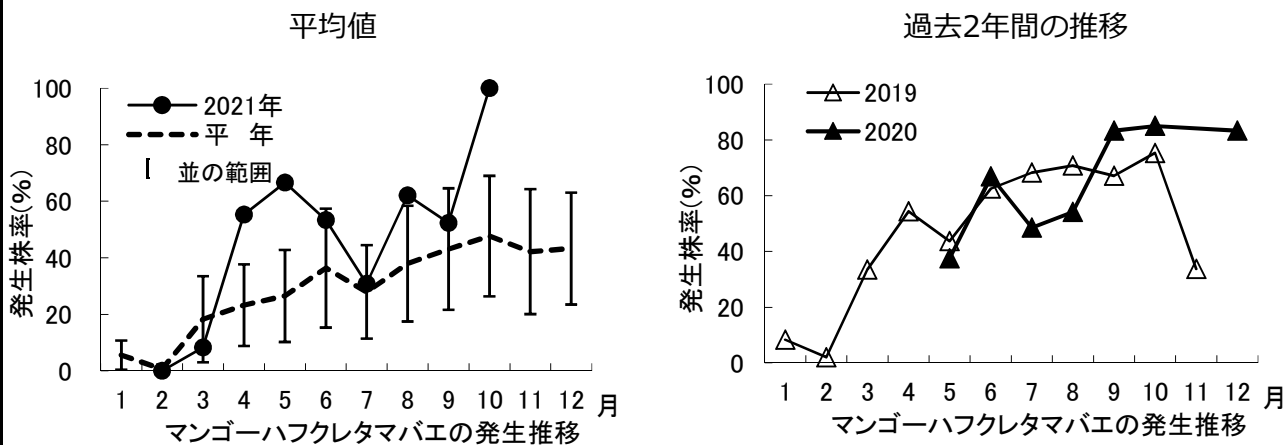
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

| | | | |
|-------|----------------|--------------------------------|---|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | マンゴーハフクレタマバエ | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 多 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 多 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (∨) 新梢の発生量が減少するため | |


調査結果



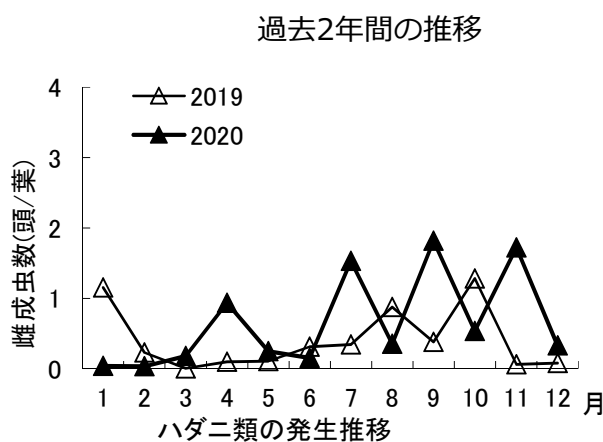
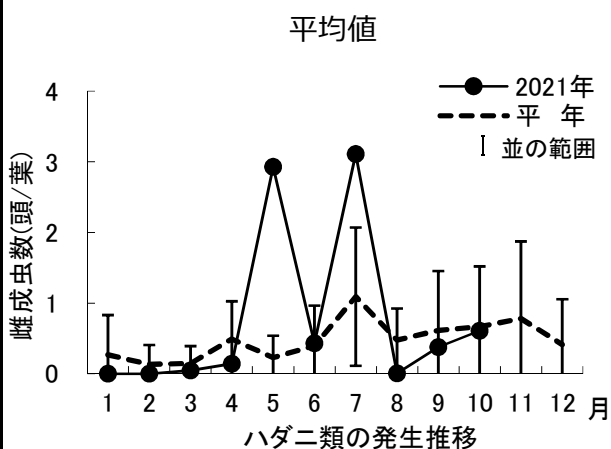
・発生施設率：100%（平年値：72.4%）

防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

| | | | |
|-------|----------------|--------------------------------------|--|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① ハダニ類 | |  <p>シュレイツメハダニ</p> |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の降水量が平年並の見込み | |

調査結果



- ・ 発生種 : シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・ 発生施設率 : 50.0% (平年値 : 55.6%)

防除のポイント

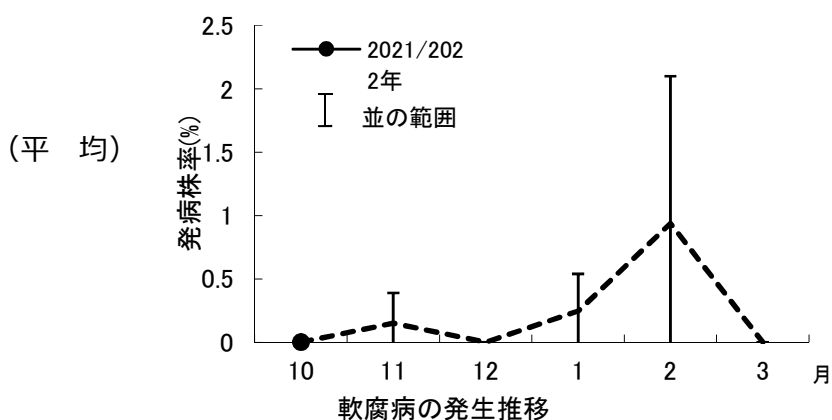
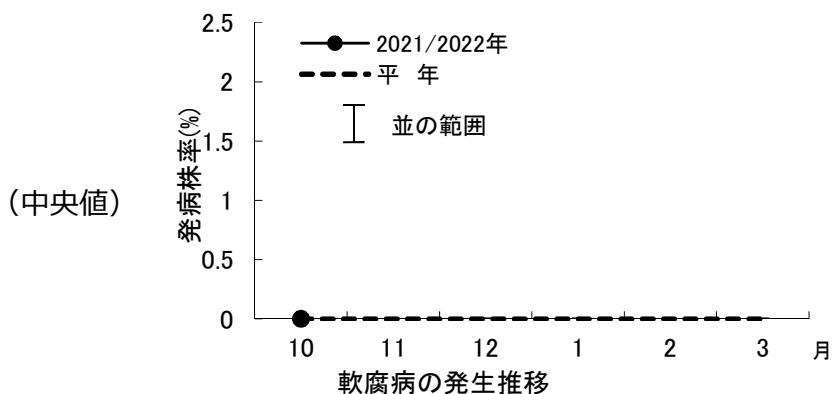
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

| | | | |
|-------|----------------|---------------|------|
| 作物 | レタス | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① 軟腐病 | | |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果



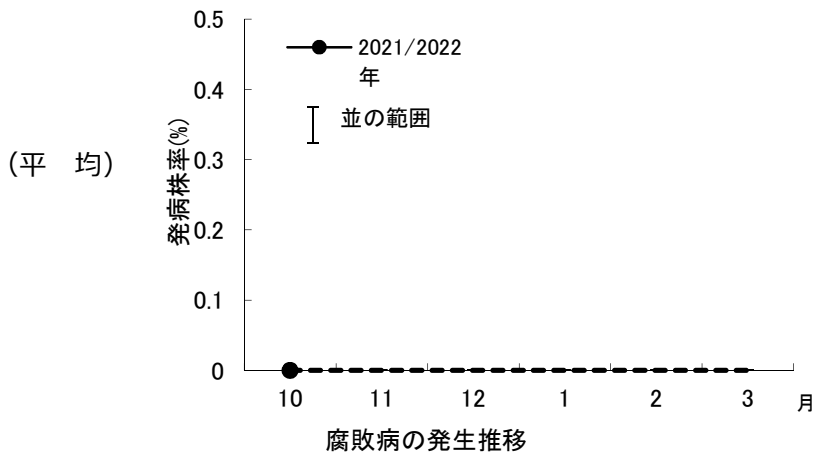
・発生ほ場率：0.0% (平年値：0.0%)

防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・菌の侵入源となる傷口の発生を助長するヨトウ類の幼虫やナメクジなどの駆除に努める
- ・薬剤散布は予防を主として、株元を中心に、丁寧に行う。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

| | | | | |
|-------|---------------|---------------|----|------|
| 作物 | レタス | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | 腐敗病 | | | |
| 調査結果 | 10 月の発生量（平年比） | (発生なし)並 | | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | | |
| | 11 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | | |


調査結果



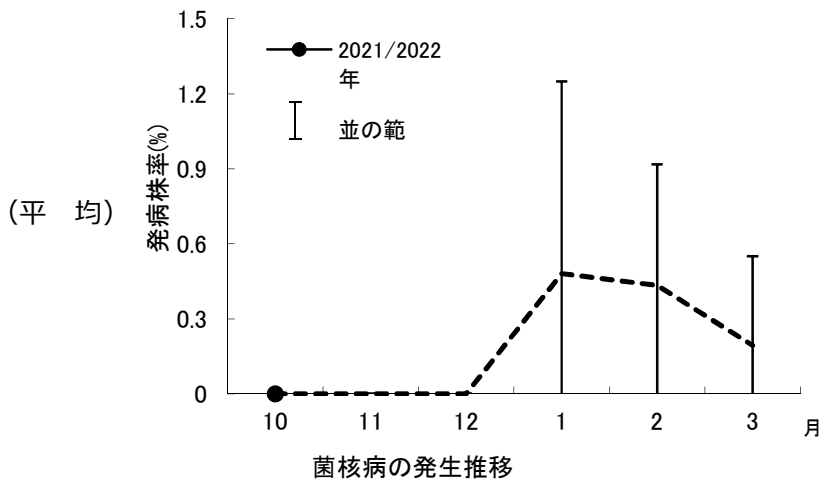
・発生ほ場率：0.0%（平年値：0.0%）

防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | レタス | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | 菌核病 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | | 11 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |


調査結果



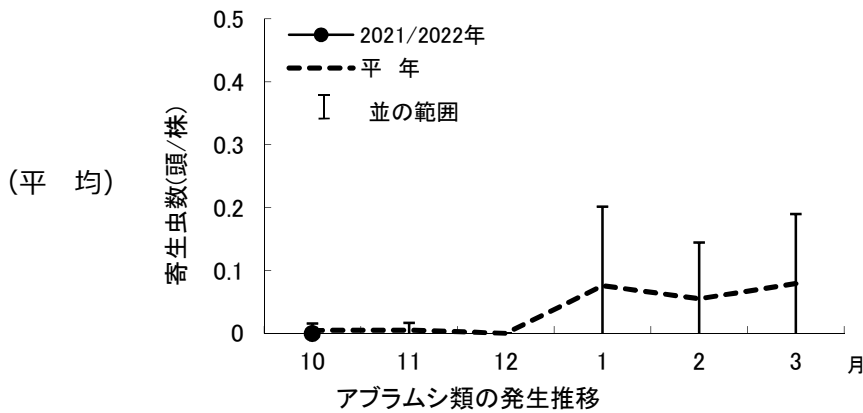
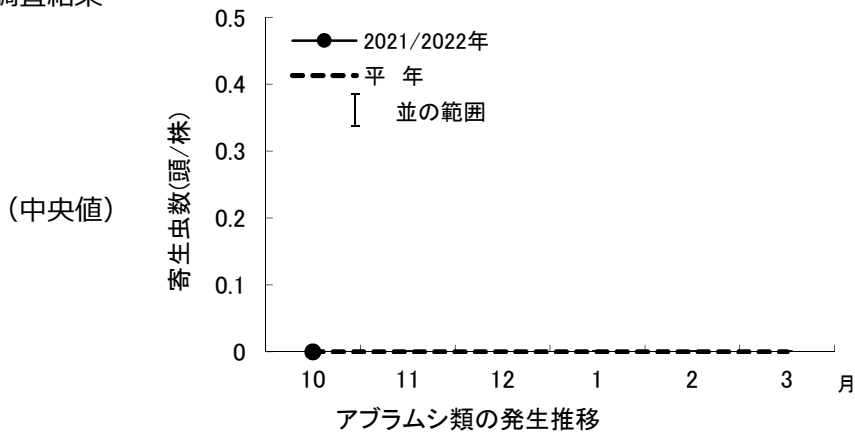
・発生ほ場率 : 0.0% (平年値 : 18.8%)

防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | レタス | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | アブラムシ類 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |


調査結果



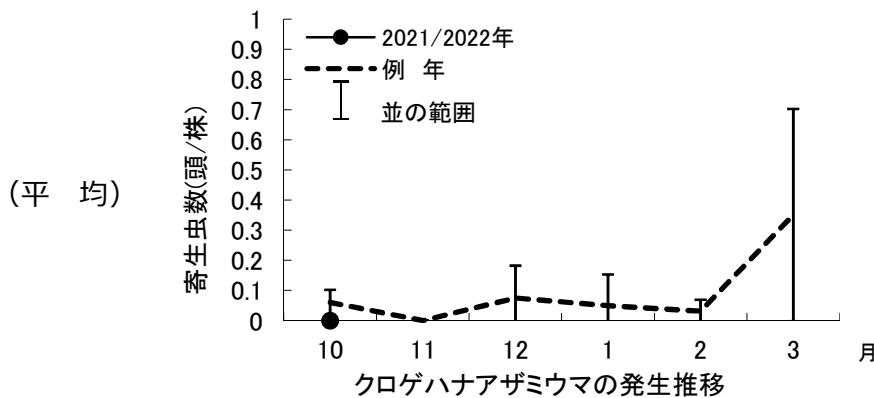
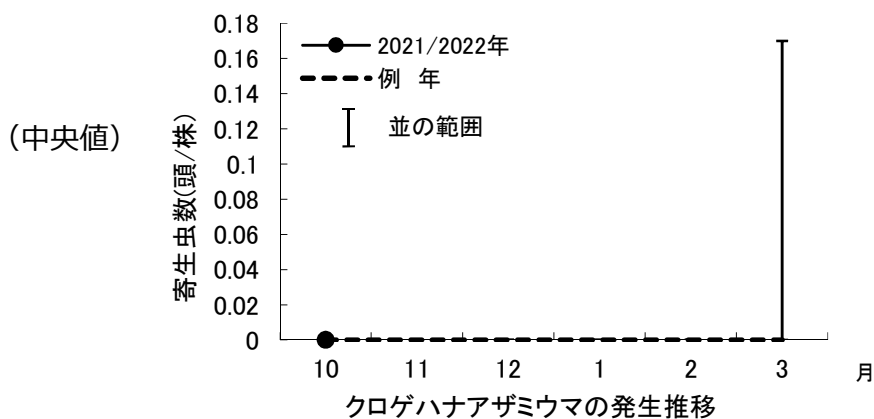
・発生ほ場率：0.0% (平年値：40.0%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・天敵に影響の少ない、選択性殺虫剤を選定する。

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | レタス | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | クロゲハナアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | |



調査結果



・発生ほ場率 : 0.0% (平年値 : 4.5%)

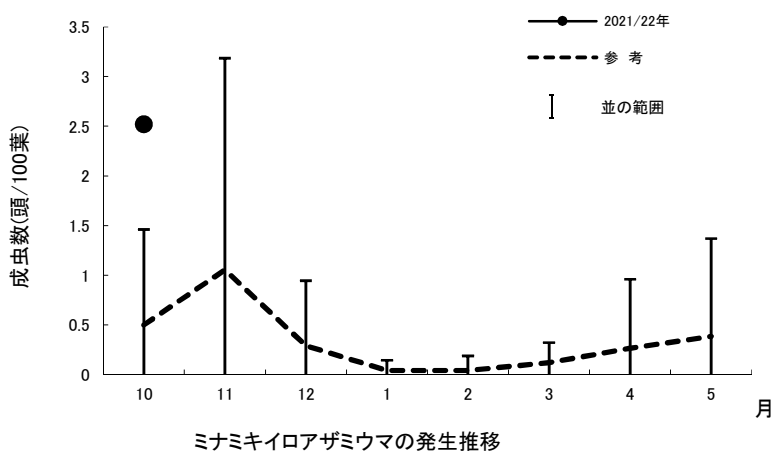
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

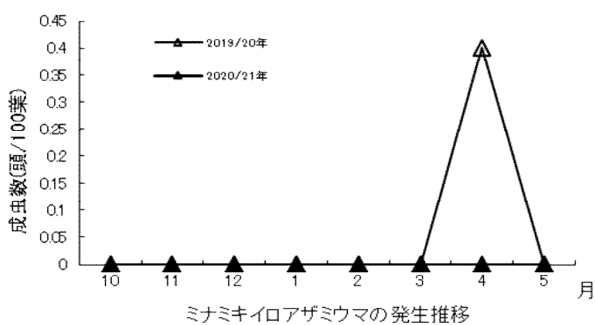
| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① ミナミキイロアザミウマ | |   |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | | 11 月の発生量 (平年比) | やや多 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

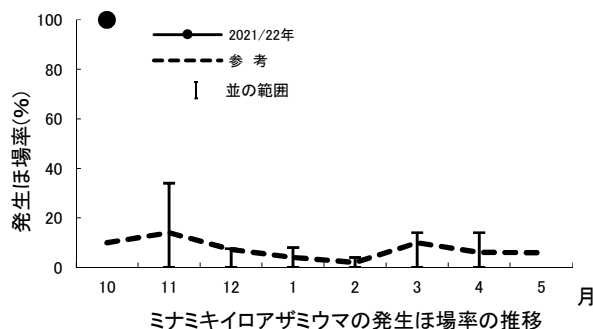
(平均)



過去 2 年間の推移




発生ほ場率



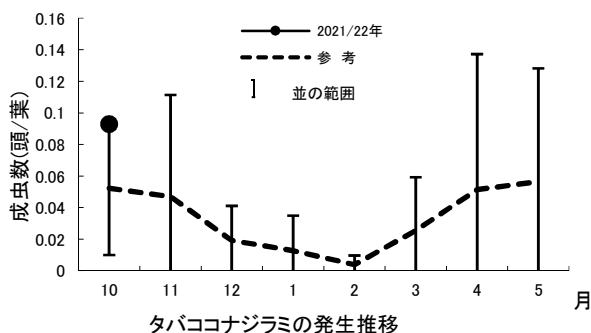
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス及びトウガラシ退緑ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

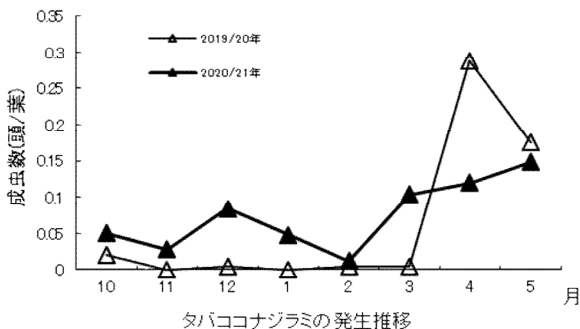
| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② タバココナジラミ | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | | 11 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

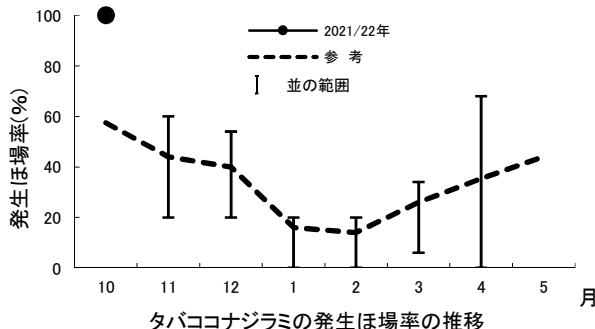
(平均)



過去 2 年間の推移




発生ほ場率



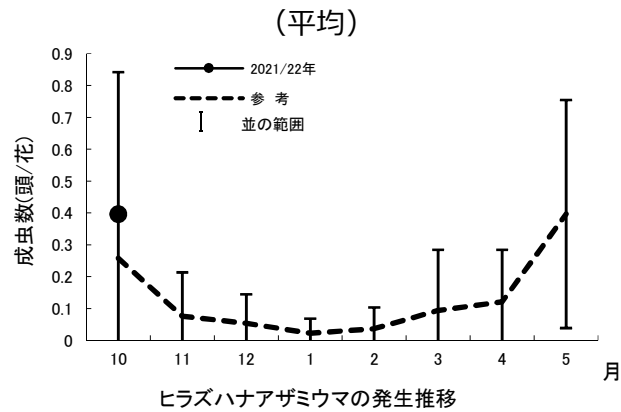
防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

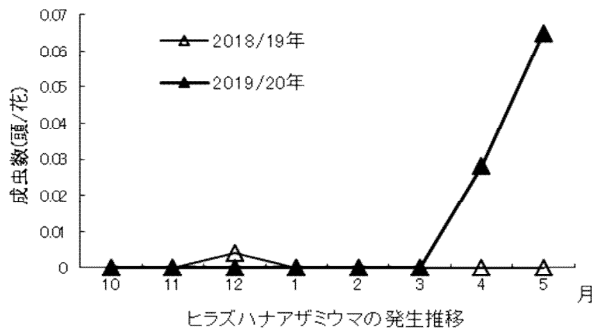


| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ヒラズハナアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | |

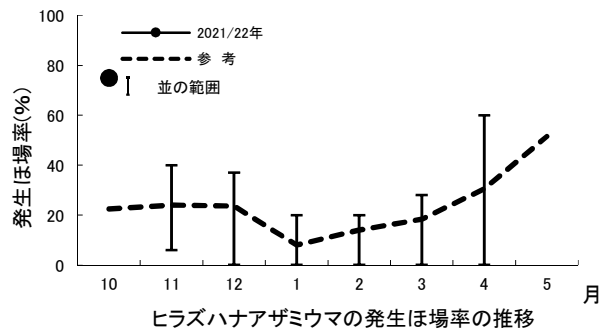
調査結果



過去 2 年間の推移




発生ほ場率



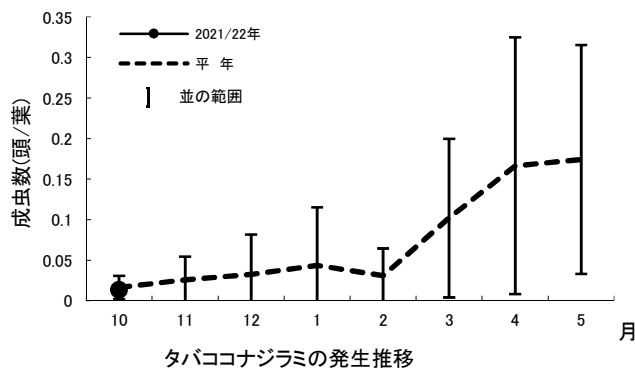
防除のポイント

- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

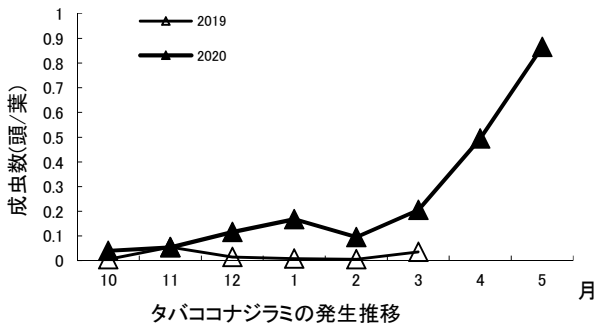
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | トマト(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | コナジラミ類 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

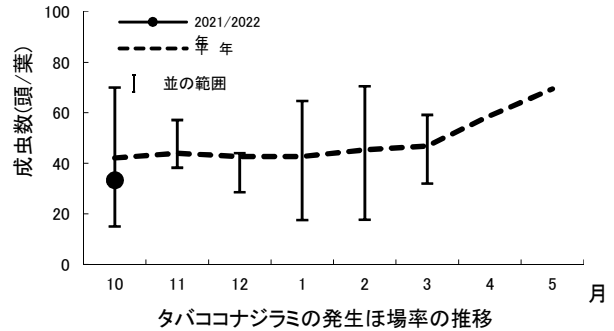
(平均)



(過去2年間の推移)




(発生ほ場率)

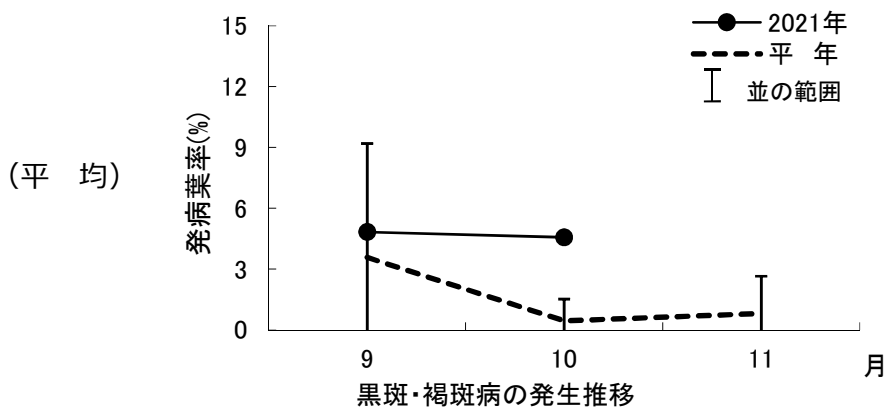
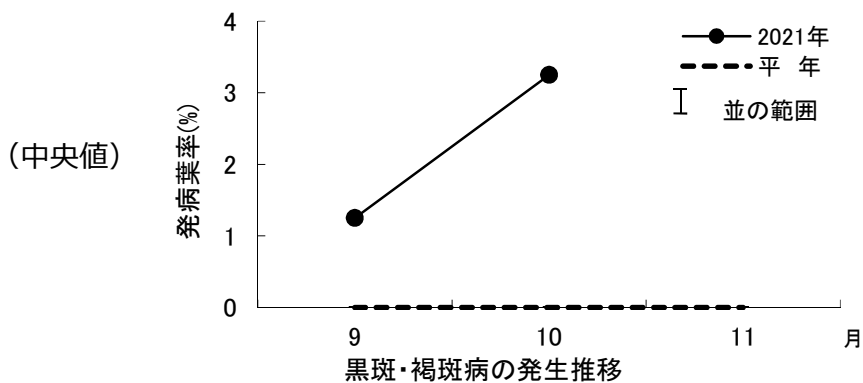


防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

| | | | | |
|-------|---------------|--------------|----|---|
| 作物 | 小ギク（年末出荷用） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① 黒斑・褐斑病 | | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量（平年比） | 多 | | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | | |
| | 11 月の発生量（平年比） | 多 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（→） | | |


調査結果



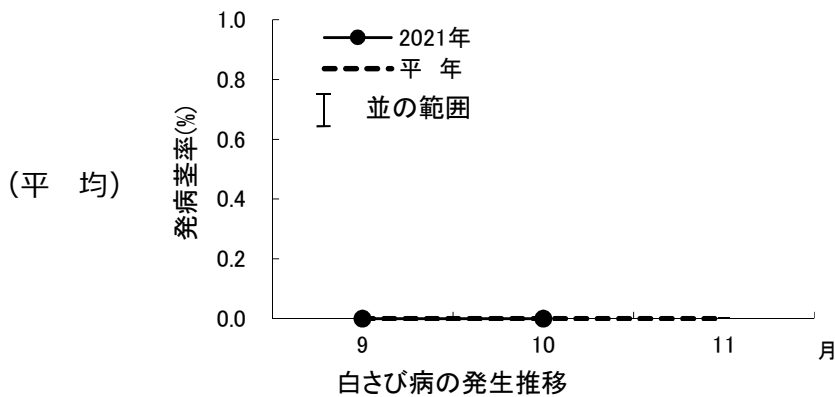
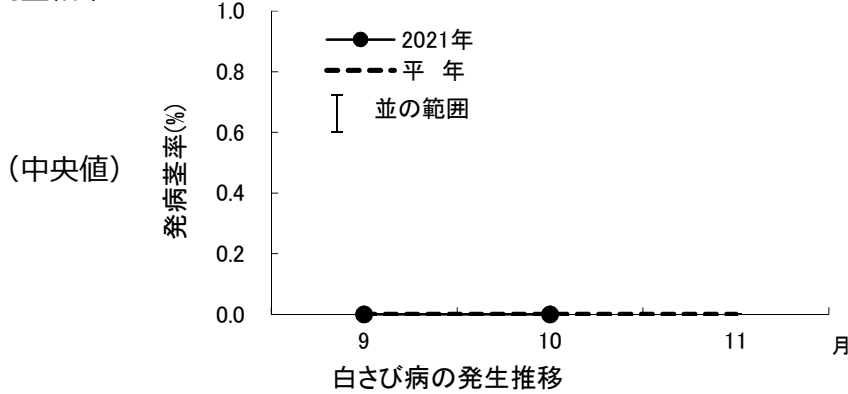
- ・発生ほ場率：75.0%（平年値：9.6%）
- ・一部ほ場で多発

防除のポイント

- ・苗は健全株から採苗する。
- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。

| | | | | |
|-------|---------------|---------------|---|------|
| 作物 | 小ギク（年末出荷用） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | 白さび病 | |  | |
| 調査結果 | 10 月の発生量（平年比） | (発生なし)並 | | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | | |
| | 11 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | | |


調査結果



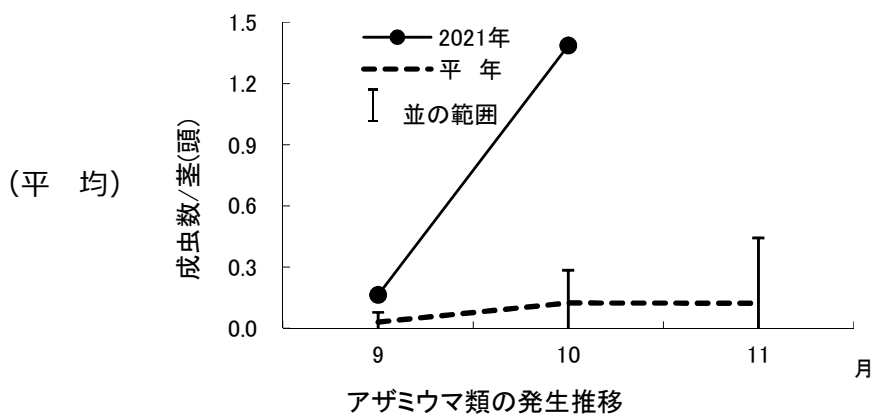
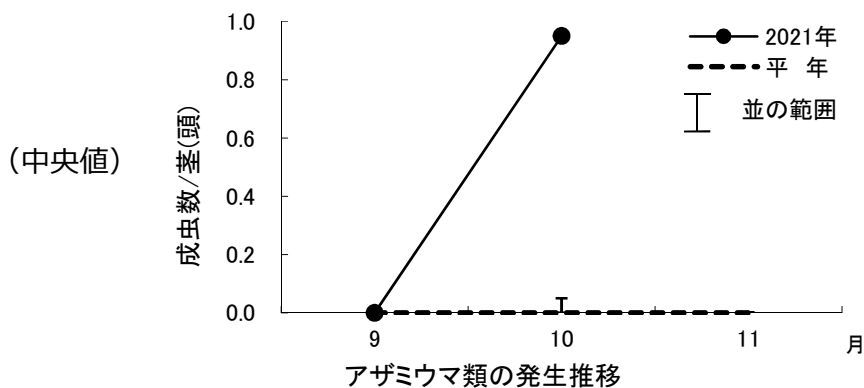
・発生ほ場率：0.0%（平年値：0.0%）

防除のポイント

- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | 小ギク (年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② アザミウマ類 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 多 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | → | |
| | | 11 月の発生量 (平年比) | 多 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |


調査結果



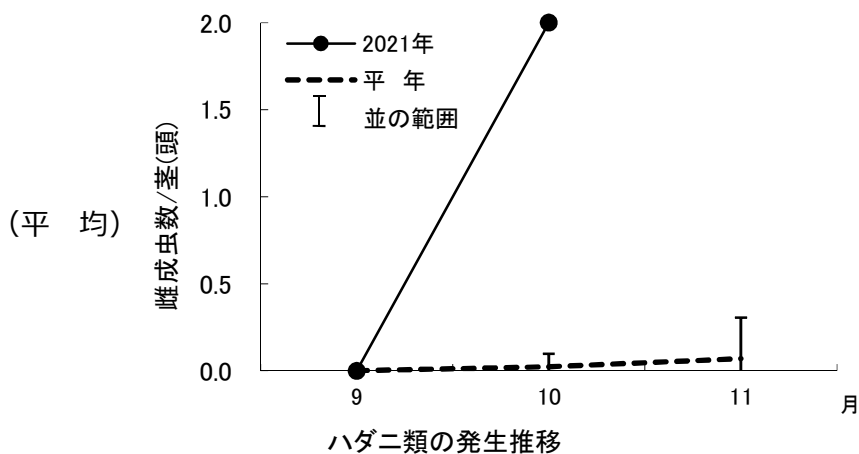
- ・発生ほ場率：100.0% (平年値：35.3%)
- ・防除員報告：多発生 (伊江島、久米島)

防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

| | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|---|
| 作物 | 小ギク (年末出荷用) | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ③ ハダニ類 | | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | 多 | | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↗ | | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 多 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | | |


調査結果



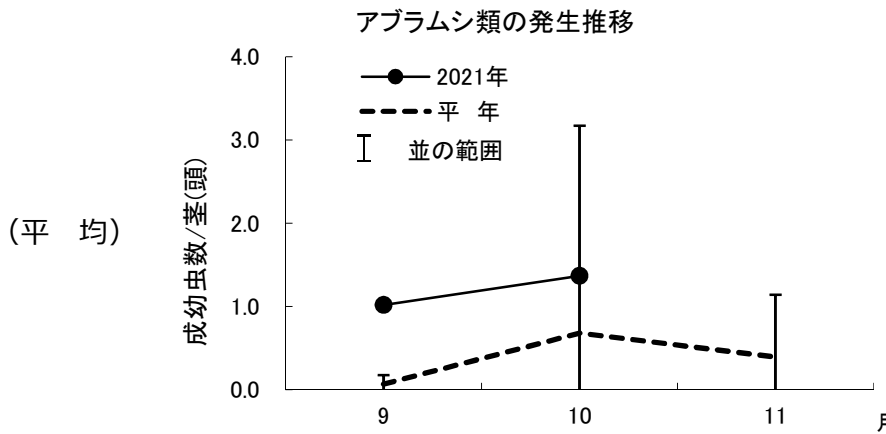
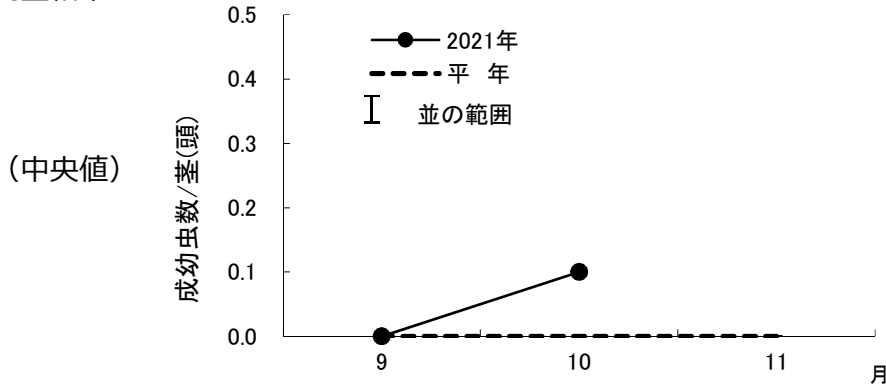
- ・発生ほ場率：62.5% (平年値：7.2%)
- ・病害虫防除員報告：久米島 (中発生)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | 小ギク (年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ④ アブラムシ類 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↓ | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↓) | |

調査結果



- ・発生ほ場率：62.5% (平年値：26.5%)
- ・一部ほ場で多発

防除のポイント


- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



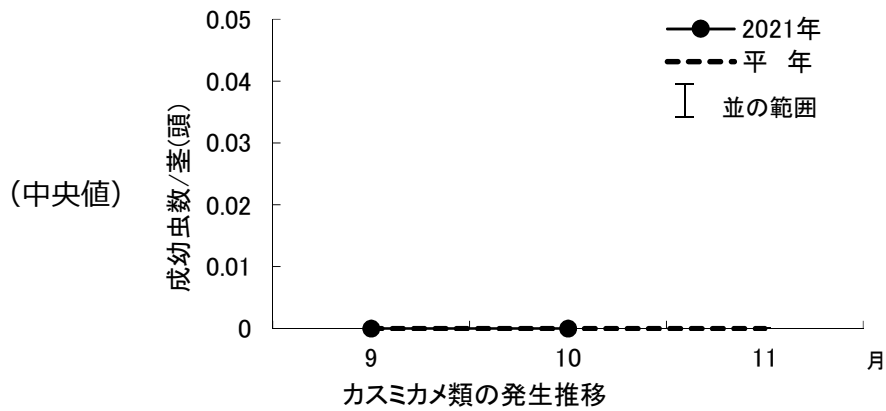
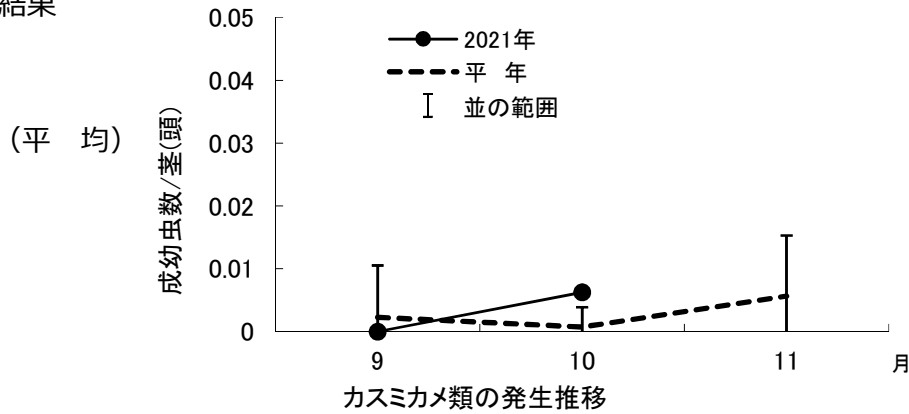
被害の様子



有翅虫

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | 小ギク (年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ⑤ カスミカメ類 | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |


調査結果



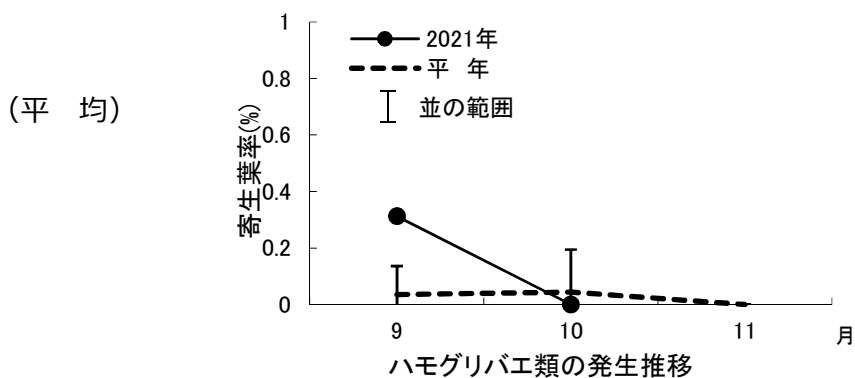
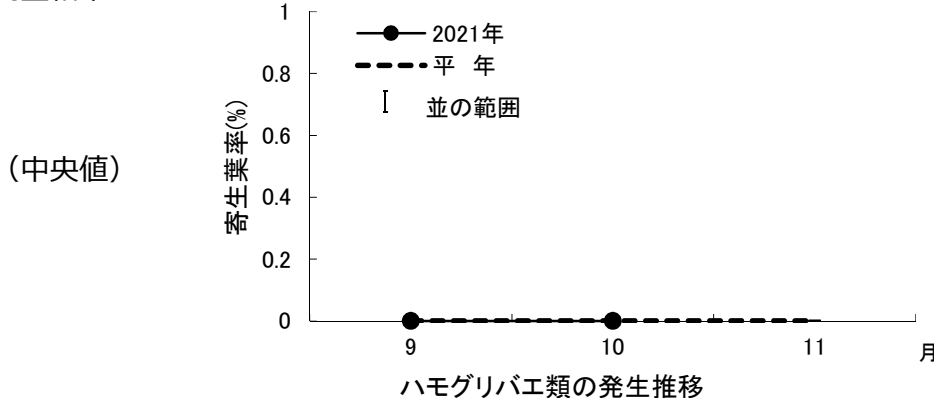
・発生ほ場率：12.5% (平年値：1.5%)

防除のポイント

- ・電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- ・周囲のほ場に収穫残りの花があると発生源になる場合があるので除去する。

| | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|---|
| 作物 | 小ギク (年末出荷用) | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | チョウ目幼虫 | | |  |
| 調査結果 | 10 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | | |
| 予報 | 10 月からの増減傾向 | ↘ | | |
| | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | | |

調査結果



・発生ほ場率 : 0.0% (平年値 : 5.1%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。